

公園空間における落ち着ける場所の研究
-仮設性に着目して-

建築学専攻
プロジェクトデザイン研究

MJ23051 國吉^{くによし} 智貴^{ともき}
指導教員 岡野 道子

序章 はじめに

0-1.研究背景

2020 年から始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対し、我が国では、「三つの密」を回避するという観点から、不要不急の外出の自粛要請、イベントの開催制限等が行われるとともに、人と人との接触機会の低減のため、在宅勤務・テレワークが推奨された。この結果、在宅勤務・テレワークの急速な進展、自宅での活動時間の増加、公園等の自宅周辺環境の利用者の増加等、人々の生活様式は大きく変化し、これに伴って、サードプレイスの需要が増加し、街路や公園空間もサードプレイスとしての利用が期待されている。また、筆者自身、大人になってから自然と公園を利用するという行為が減っており、意識的に準備してからでないと公園を利用しなくなっている。ふとした時に公園に立ち寄り、落ち着いてリフレッシュできる空間が、現代の大人には必要なのではないか。

0-2.研究目的

本研究では、公園空間において一人で落ち着ける空間の研究を行う。仮設性と落ち着ける空間の 2 点に着目して調査を行い、公園空間に対して、仮設的に落ち着ける空間を創り出す建築の提案を目的とする。

0-3.研究方法

第 1 章では、屋台の歴史・変遷を振り返るとともに屋台建築の特性について理解する。第 2 章では、屋台の事例調査を行い、分類をした後、屋台の仮設性について分析を行う。第 3 章では、落ち着ける空間についての調査を行い、分類・分析を行った後、落ち着ける空間に重要となる要素を絞る。第 4 章では、前章までの分析と考察をもとに公園空間において仮設的に落ち着くことができる空間の設計・製作を行う。第 5 章では製作物を実際に公園利用者に提供し、利用状況を調査する。最後に製作したものが利用者や公園空間にどのような影響を与えるのかを考察し、本研究の考察と今後の課題について論じてまとめる。

第 1 章 屋台の歴史と特性

1-1.屋台の歴史

日本における屋台の歴史は、古代から現代に至るまで社会や経済の変遷とともに発展してきた。古代では、市場や祭りで食料品や日用品を販売する露店が見られ、中世には定期市の発展に伴い、商人たちが広く商品を販売するようになった。江戸時代には屋台文化が最盛期を迎え、そば、うどん、天ぷら、寿司など多彩な料理を提供し、庶民にとって欠かせない存在となった。また、屋台は食事だけでなく交流の場としても機能し、「夜鳴きそば」などが人気を集めた。

明治時代には西洋文化の影響を受けつつも、たこ焼きや焼きそばなど新しいメニューが加わり、屋台文化が多様化。戦後の復興期には、失業者が闇市で屋台を開き、ラーメン屋台が全国に広がった。現代でも、地域の祭りやフードトラックとして屋台は健在であり、その文化は進化を続けている。

1-2.屋台の特性

屋台の最大の特徴は、その移動性と仮設性にある。簡易な構造で作られ、容易に移動・設置が可能のため、市場や祭り、繁華街などでの営業に適している。また、手軽さや経済性も屋台の重要な特徴であり、初期投資や維持費が低く抑えられることで、安価な価格設定が可能。簡易な設備により迅速な提供も実現し、忙しい都市生活者にとって理想的な食事の場となっている。

1-3.まとめ

屋台の特徴である移動性と仮設性、コミュニティ形成としての機能、手軽さと経済性は、いずれも都市生活における重要な要素である。これらの特徴が組み合わさることで、屋台は日本の都市文化と食文化において欠かせない存在となり、現在に至るまでその伝統が受け継がれている。

第 2 章 屋台の事例調査

2-1.調査概要

屋台は、その形状においても独自の特徴を持ち、移動性や仮設性、コンパクトさなどが際立っている。一方、現代で屋台と呼ばれるものには様々な形態があり、多種多様の要素で分類することができる。本章では、それらの事例を調査し、要素を抽出し、分類することで、屋台の特徴的な移動性・仮設性について分析する。

2-2.事例調査と分類・分析

国内の 60 個の屋台事例を調査し、それぞれの特徴の要素分けを行い、分析した。

調査日	常設	仮設	附属型	独立型	持ち運び式	組み立て式	連続型	並立型	開閉型	開放型	座席付型	No.
2024/7/8(月)		○		○			○			○		1
2024/7/8(月)		○		○			○			○		2
2024/7/8(月)			○	○		○	○			○	○	3
2024/7/8(月)		○		○		○	○			○	○	4
2024/7/8(月)		○	○				○			○		5
2024/7/8(月)			○	○	○			○		○		6
2024/7/8(月)			○	○		○	○			○		7

表 1 屋台分類表 (一部抜粋)

分類する要素は以下の 11 項目とする。
①常設 ②仮設 ③附属型 ④独立型 ⑤持ち運び式 ⑥組み立て式 ⑦連続型 ⑧孤立型 ⑨閉鎖型 ⑩開放型 ⑪座席付型

2-3.仮設性についての分析

これまでの調査を踏まえて、屋台を支える仮設性の高さには「持ち運びが容易である事」と「設置工程が簡潔であること」が重要であることが分かった。

第3章 落ち着ける空間の調査

3-1.調査概要

人々が落ち着ける空間の調査を行い、分類・分析を行うことで、落ち着ける空間に必要な要素を模索する。

3-2.調査手法

筆者の友人 20 人を対象に調査を行う。芝浦工業大学豊洲キャンパス内 14 箇所の空間を実際に利用してもらい、各々が落ち着けると感じた空間に対し、以下の 7 項目によって評価する。
・サイズ・明るさ・視線の通り・音・素材・柔らかさ・体勢

3-3.調査結果・分析

No.		サイズ	視線	音	素材	柔らかさ	明るさ	体勢	落ち着けると感じた人数
1		M	100%	60dB	革	柔らかい	明るい		2人
2		L	20%	50dB	布	やや硬い	薄暗い		4人
3		M	70%	60dB	革	やや柔らかい	明るい		0人
4		M	60%	50dB	革	柔らかい	明るい		9人
5		L	0%	30dB	プラスチック	硬い	明るい		2人

表 2 落ち着ける空間調査表（一部抜粋）

3-4.まとめ

落ち着けると感じた人数の多かった空間と調査対象者のコメントから落ち着ける空間には以下のポイントが重要となることがわかった。
・1人でゆったりと使える空間の大きさであること
・ある程度視線が遮られている or 人通りが少ない
・環境音は 30dB～60dB 程度であること
・革、布等の素材で柔らかさがあること
・寄りかかる、寝転ぶなど楽な体制が取れること

第4章 仮設的に落ち着ける空間の設計・製作

4-1.設計概要

前章では、公園空間において一人で落ち着ける空間を仮設的に創出することを目的として、仮設性と落ち着ける空間の 2 点に着目し調査を行った。これにより得られた調査結果をもとに、これらの要素を反映させた設計を行う。

4-2.使用素材

主要素材としては、加工性、デザイン性、軽量性、さらに屋外使用への適合性など多様な要因を考慮し、

木材と布を選定した。木材には杉材を採用し、布材には吸音性を有するものを一部使用することで、実用性と快適性の両立を図った。

4-3.多用途化

周辺環境や利用者の姿勢および多様なニーズに対応するため、木材の組み替えを可能とした。本構造は、椅子型、テント型、大屋根型の三種類に変形可能であり、利用シーンや目的に応じた柔軟な適応を実現することを目的としている。

4-4.ポータブル化

特定の場所に制約されず、多様な場で簡単に設置・移動することを可能にするため、また使用環境に合わせた柔軟な対応が求められるため、ポータブル化を図った。これにより、設置や撤収の迅速化が実現し、限られたスペースや一時的な利用の場面でも効率的に活用できるようになる。

第5章 実施調査

本章では、実際に制作物を公園空間に設置し、一般の利用者を対象にアンケート調査を実施する。調査の目的は、制作物が仮設性を持ち、かつ利用者にとって落ち着ける空間であるかどうかを評価することである。評価項目として、仮設性の観点からは設置・移動の容易さ、維持管理の簡便さを、落ち着ける空間としての評価には、利用者の快適性や安心感を考慮し、調査結果を分析する。

第6章 おわりに

本研究では、設計した制作物を通じて、公園空間がより多様かつ気軽に利用される場となることを目指した。これにより、日本人にとって公園が大人になっても身近で親しみやすい存在であり続けることを期待している。また、本研究の成果が、公園に限らず都市内の多様な空間において、それぞれの利用者が独自の居場所を創出できる未来の実現に寄与することを願う。

参考文献

(1) 国土交通省：ニューノーマルに対応した新たな都市政策はいかにあるべきか,2021-04.
<https://www.mlit.go.jp/toshi/machi/content/001398793.pdf> ,(参照 2024-06-14)

(2) Ray Oldenburg (忠平美幸訳)：サードプレイス・コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」, みすず書房, 2013.

(3) 大石繁宏：幸せを科学するー心理学からわかったこと,新曜社,2009.

(4) 橋本 成仁, 今村 陽子, 海野 遥香, 堀 裕典:サードプレイスと主観的幸福感に関する研究,土木計画学研究・論文集,77 巻 5 号 p. 375-383,2022.

(5) 奈良文化財研究所.”古代のスーパーマーケット”.なぶんけんブログ.2014-08-07.
<https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2014/08/tanken37.html> ,(参照 2024-07-05)